

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会に適用する規則は、2026年度日本陸上競技連盟競技規則である。

2. 練習場について

- ① 補助競技場で行う。本競技場は開放しない。
- ② 投てき練習は、指導者立会いの下投てき練習場で行うこと。

3. 招集について

- ① トラック競技開始時刻の 30 分前受付開始、20 分前集合、15 分前完了。
- ② フィールド競技開始時刻の 40 分前受付開始、30 分前集合、25 分前完了。
(ただし、棒高跳は 50 分前受付開始、40 分前集合、35 分前完了)
- ③ 欠場する場合は、招集開始時刻までに「欠場届」を招集所に提出する。なお、「欠場届」は招集所で配布する。
- ④ 招集所は第2ゲート外側に設ける。
- ⑤ 招集場所に設置された所定の用紙(1枚)の自己ナンバーカード番号を○でかこみ第一コールを終り、招集完了時刻の5分前までに招集所で待機する。(○印は係で用意してある赤鉛筆使用のこと)
- ⑥ 招集完了時刻までに競技者係はナンバーカード番号及び結着状態を確認して最終コールを完了する。完了後、競技者係の指示、誘導に従う。出場者以外の招集所への立入及び代理人による招集は認めない。但し、事情があるときの届出の際は、代理人の立入を認める。
- ⑦ 2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が招集所に用意した「多種目同時出場届」に記入し1種目目の招集時に招集所へ提出する。なお、「多種目同時出場届」は招集所で配布する。
- ⑧ 招集におくれた者は棄権とみなして出場を認めない。
- ⑨ 携帯電話や通信機器(通信機能のあるスマートウォッチを含む)、および音楽再生機器等は、持ち込めない。(競技規則 TR6.3.2)

5. リレー種目について

- ① 6名までエントリーできる。
- ② リレーのオーダー用紙は、予選・決勝とも、招集完了時刻の60分前までに招集所に提出すること。怪我等による選手の交代は、招集完了時刻までに大会総務が任命した救護員の判断がない限り認めない。救護員の判断による変更は、対象の選手の変更のみを認め、編成(走る順番)の変更は認めない。また、招集完了時刻前であっても、一度提出した編成の変更(オーダー用紙の差し換え)は認められない。用紙は招集所で配布する(小学生と一般の部は受付で配布する)。

6. 競技について

- ① アスリートビブスは通年ナンバーを折り曲げずに胸と背につける。跳躍種目の場合は、胸または背だけでよい。アスリートビブスのない競技者は出場を認めない。
- ② トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識をランニングパンツ右側上部の後方につけること。腰ナンバー標識は粘着性のものを競技者係が配付する。使用後は各自で廃棄すること。
- ③ 不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。(TR16. 8)
- ④ スタート時における不適切行為 (TR16. 5) 発生時は、責任ある競技者に対し警告を与える。それでもなお、不適切行為に該当する行為により注意を受けた競技者については、当該種目において失格とすることがある。小学生の部は、スタートで同じ競技者が2回不正スタートをしたときは、その競技者を失格とする。5年、6年100mは、クラウチングスタートとする。(スターティングブロックは使用しなくてもよい)
- ⑤ トラック競技の100、200、400、800m、100mH、110mH、4×100mRは、予選の記録上位8名が決勝に進出するものとする。フィールド競技は、決勝のみとする。
- ⑥ 短距離種目では、事故防止のためフィニッシュライン到着後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- ⑦ トラック競技における次ラウンドのレーン決定については、TR20. 4を適用する。
- ⑧ 予選におけるトラック競技の走路順はプログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技とフィールド競技の決勝については主催者が公平に抽選し、その結果を番組編成掲示板に掲示する。
- ⑨ レーンを用いて行うトラック競技で棄権があった場合は、そのレーンを空ける。
- ⑩ 計時は、原則として電気計時(写真判定による1/1000秒)とする。(競技規則TR19. 23)
- ⑪ タイムにより次のラウンドの出場者を決めるときに同記録者があり、レーン数が不足するときの処置は、写真判定主任が同記録者の写真を拡大して、より細かく優劣を判定して進出者を定める。それでも決められない場合は、本人もしくは監督による抽選とする。(競技規則TR21. 5)
- ⑫ 走幅跳と砲丸投においては、すべての競技者に3回の試技が与えられる。試技3回終了時の記録上位8名には、さらに3回の試技が与えられる(TR25. 6)。試技3回で終了とする。
- ⑬ 走高跳、棒高跳においては、連続する3回の無効試技で競技終了とする。(TR26. 2)
- ⑭ 競技用具棒高跳用ポール以外はすべて競技場備品を使用する。
 - ・ 棒高跳用ポールは跳躍審判員が検査する。
 - ・ 投てき競技のテープ等使用許可希望者の検査は、競技場で投擲審判員主任が行う。(TR32. 4. 1)
- ⑮ 競技運営上、競技日程及びピットを変更することがある。
- ⑯ リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場できる。ただし、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人は、リレーに申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して2人以内に限り他の競技者と交代することができる。この規則に従わなければ、競技規則によりチー

ムは失格となる。(TR24. 10)

- ⑰ リレー競技においては、そのチームの同一色ユニフォームを着用すること。(TR5. 1)
- ⑱ リレー競技のマーカー使用については競技規則を適用し、大きさが 50mm×400mm 以内の粘着性のテープ 1 カ所の使用を認める。マーカーは各校で用意し、使用後はそのチームで処理すること。(TR24. 4)
- ⑲ 競技場およびピットでの競技前の跳躍・投てき練習は、競技役員の指示によって行う。
- ⑳ 審判長がやむを得ないと判断した場合に限り、フィールド競技の試技順を変更することができる。
- ㉑ 競技者は、その競技をするとき以外はトラックおよびフィールドに立ち入ることができない。
- ㉒ 競技者に対する助力については、競技規則 TR6. 2 を適用する。フィールド競技については、コーチングエリアを設ける。その利用は、監督及び指導者が競技者とのコミュニケーションをとる場合のみとするので、エリア内に常駐しないこと。また、メインスタンドから動画を撮影した端末の受渡はできない。
- ㉓ 抗議は、競技規則 TR8 によって定められた時間内に各チームの監督者が行うこと。なお抗議受付窓口は競技場大会本部に設けるので、係員に申し出ること。この裁定に不服の場合は預託金(2 万円)を添え、担当総務員を通じて審判長に文書で申し出ること。(TR8. 7)
- ㉔ 本部前の通行は禁止する。
- ㉕ 競技用靴のスパイクのピンの長さは 9mm 以下とする。ただし、走高跳は 12 mm 以下とする。
- ㉖ 競技用靴については、WA シューズ規定を適用する。(投擲は除く)。小学生には適用しない。

7. 中学校走高跳、棒高跳のバーのあげ方(中学校)

走り高跳び

男 子	1 m30 ～ (5 cm) 1 m 60. 65. 68 以上 3 cm ずつあげる。
女 子	1 m15 ～ (5 cm) 1 m 35. 40. 43 以上 3 cm ずつあげる。

棒高跳

男 子	2 m00 ～ (10 cm) 2 m 40. 50. 60 以上 10 cm ずつあげる。
-----	--

- ① 走高跳及び棒高跳で上記以後の高さは、最後の一人になり優勝が決まるまでは走高跳は 3 cm、棒高跳は 10 cm きざみとする。
- ② 第 1 位を決めるためのバーの上げ下げは、走高跳で 2 cm、棒高跳で 5 cm きざみとする。(TR26.9.4)
- ③ 棒高跳の支柱移動申請書は提出しない。競技開始前に跳躍場にて競技役員に直接申し出ること。

8. その他

- ① 横断幕・のぼりの設置場所は、メイン・サイド・バックスタンドとも、最上段の手すり、

またはフェンスとする。設置の際は通行の妨げにならないよう十分配慮すること。

- ② 参加チームとも、選手の健康管理と事故防止には十分配慮すること。
- ③ 場内でのマナーに関して、各チームで指導を徹底すること。
- ④ 本部前、メインスタンド下の通路は、関係者以外立ち入り禁止とする。
- ⑤ 選手の付き添いは、競技場内へは立ち入りを認めない。
- ⑥ トラック競技においては競技種目並びに出場選手紹介のアナウンスがあり次第、フィールド競技においては試技を開始しようとしている競技者がいる場合、応援を自粛する。
- ⑦ メインスタンド内において、出入り口付近、通路、最前列の手すり付近に立って応援することは禁止する。またサイド・バックスタンドから競技場内に降りての応援も厳に慎む。競技進行の妨げになるような応援は慎むこと。
- ⑧ 選手の安全確保およびプライバシー保護のため、競技場内での写真・動画撮影について、以下のとおりとする。

- 1. メインスタンド中段より下のエリアは「撮影禁止エリア」とする。
- 2. 撮影が認められているエリアにおいても、一眼レフカメラ・ミラーレスカメラ・ビデオカメラ・望遠レンズ等を使用した撮影は禁止とする。
- 3. 撮影可能エリアでの撮影は、スマートフォンまたはタブレット端末のみとする。
- 4. 選手を不必要にアップで撮影する行為、特定の選手を執拗に撮影する行為、競技と関係のない目的での撮影は禁止とする。
- 5. 撮影した写真・動画を、本人の承諾なく SNS 等へ掲載・公開することを禁止とする。
- 6. 大会役員・係員から撮影の中止や撮影場所の移動を求められた場合は、速やかに指示に従う。
- 7. 不審な撮影行為を確認した場合は、大会本部または大会役員へ知らせること。

- ⑨ 競技場内に降りての写真撮影(卒業アルバム用も含む)は、大会本部に申し出て許可を得た場合以外は禁止する。撮影者は、許可を得ていることが明確にわかるような証を身に付けること。
- ⑩ ゴミは各チーム持ち帰りを原則とするが、事情に応じて配慮する。なおゴミ袋は大会本部に準備する。各チームの清掃割り当ては別に定める。全チームとも協力すること。

9. 一般の砲丸投の重量は次のとおりである。

男		女	
～50 未満	7.26kg	～50 未満	4.00 k g
50～60 未満	6.00kg	50～	2.72 k g
60～70 未満	5.00kg		
70～	4.00kg		